

甦る白瑠璃！コラレンの世界

～ 幻の近代輸出陶磁器 ～

コラレンとは英語で「珊瑚のような（coralene）」という意味です。これは器面に施された細かな**ガラスビーズ**が珊瑚に似ていることからきています。ブランド名やメーカー名等ではなく装飾技法の一種になります。コラレンは作陶に繊細で難度の高い装飾技術を要するため、現存する作品数が少ないことが特徴として挙げられます。オールドノリタケや名古屋製陶所、松風陶器等の近代輸出陶磁器の中でも他を凌駕する精緻な技術とデザインの美しさを持っています。

その作陶方法は磁器を絵具で塗りつぶしてデザインにあったガラスビーズを貼り付けた後に、金彩で囲んで仕上げるというものです。こうして出来上がったコラレンはガラスビーズの施された部分が、光の入る角度によって色が変わり浮き上がって見え、キラキラと輝きます。その優美なデザインが見るものを魅了し人気を博しました。コラレンの裏印には特許番号が付与されていますが、これは横浜や名古屋にあった米国商社・ヴァンタイン商会が1907年に日本の特許庁へ、1908年にアメリカ特許庁に特許をそれぞれ申請したものです。現在コラレンの裏印は7種類確認されていますが「USパテント91217」のものが完成度も高いと言われており、人気のコレクターズアイテムとなっています。

当時コラレンを作陶した工場や商社等のうち現存するのはごくわずかであり、陶磁器に関連する資料の多くは名古屋大空襲により消失してしまい、正確な輸出時期や原産地等を特定できる資料は見つかっておりません。

449,223

1908

DIV. 40 31

(EXR'S BOOK) 31-116-2

PATENT No.

912171

Name

Alban L. Rock

Assignor to A. A. Pantone & Co., of New York N.Y.
a corp. of N.Y.

County of

Yokohama

State of

Japan

Invention

Pottery Ornamentation Method for Producing The Same

ORIGINAL

RENEWED

Petition

Aug. 19, 1908

Affidavit

4, 1908

Specification

11, 1908

Drawing

1, 1908

Model or Specimen

1908

First Fee Cash

\$15. Aug. 19, 1908

" " Cert

1908

Appl. filed complete

Aug 19, 1908

Examined

Jan 13, 1909

Counter-signed

For Commissioner

Notice of Allowance

Jan 14, 1909

Final Fee Cash

\$20 Jan. 14, 1909

" " Cert

1909

Patented

February 9

Associate Attorney

Attorney

Mann & Co.
City

Name

Serial No.

Patent No.

Date of Patent

190

Filed

Division of App. No.

PARTS OF APPLICATION FILED.

第一六一三七號

第五十七類

出願 明治四十年五月八日
特許 明治四十二年四月二十四日

北米合衆國經育市ブロードクエー八百七十九番地本店
橫濱市山下町二百六十八番地支店

エー、エー、ヴァンタイン、
エンド、カムバニー

陶磁器類ニ硝子玉ヲ密集シテ焼附クル方法

本發明ハ陶磁器類ノ面上任意ノ部分ニハ小ナル硝子玉ヲ密集シテ焼キ附クル方法ニ係リ其ノ目的トスル所ハ硝子玉ヲ其ノ本來ノ性質形狀ヲ失ハサル様ニ陶磁器製品ニ燒キ附ケテ以テ一種ノ裝飾ヲ施シ美觀ヲ添ヘントスルニ在リ

本方法ノ要部ハ陶磁器類ノ任意ノ部分ニ泥狀ノ焼附劑ヲ塗布シ其ノ未タ乾燥セサル内ニ小ナル硝子玉ヲ撒布シテ密集附着セシメ次ニ普通ノ繪附窯ニ入レテ適度ニ灼熱シテ以テ硝子玉ヲ燒キ附クルニ在リテ之ヲ敷衍詳説スレハ左ノ如シ陶磁器面ニ先ツ白繪及ヒ白玉ノ合成液ヲ附着セシメテ乾燥シ後又白繪、白玉、フタ、クス、ギヤマン、瀬戸粉、陶磁器ヲ粉末トセシモノ及ヒ海砂等ニ適等ノ顏料ヲ混合セル泥狀液ヲ塗布ス或ハ第一ノ工程ヲ省キ白繪、白玉及ヒ顏料ヲ水ト共ニ能ク攪混シ泥狀トナシ之ヲ用フルモ可ナリ白繪、白玉及ヒ顏料ノ割合ハ一定セスト雖モ後者ノ場合ニテハ白繪六分、白玉四分及ヒ顏料二分ヲ其ノ一例トス元來白繪ナルモノハ美濃、瀬戸及ヒ京都等ヨリ産スル白色土ニシテ珪酸アルミニウムヲ主成分ト爲シ前記混合物ノ熔融度ヲ高ムル作用ヲ有ス之ニ反シ白玉ハ一名鉛、ガラストモ云ヒ硝石、無水珪酸、ギヤマン又ハ石英トモ云フ並ニ鉛若クハ長谷丹ヲ混合熔融シテ製スルモノニシテ前記混合物ノ熔融度ヲ低下スル作用ヲ營ムモノナリ顏料ハ著色ノ目的ニ使用スルモノニシテ若シ著色ヲ欲セサルトキハ之ヲ混合スルニ及ハス燒附劑ハ色ノ異ナルニ從ヒ各別ニ之ヲ製ス

燒キ附ケル度合ハ又本方法ノ緊要ナル點ニシテ硝子玉ハ熔融スルコトナク而シテ燒附劑ハ半熔融狀ニ爲ルヲ適度トス即チ水金燒附ヨリ少シク強度ニシテ陶器顏料燒附ヨリ少シク低度ノ火熱ヲ可トス若シ熱度高キニ過キテ硝子玉カ熔融スルニ至ルトキハ全ク本發明ノ目的ヲ達シ得サルコト勿論ナルカ燒附劑カ完全ニ熔融シテモ亦本發明ノ